

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	45701001826
法人名	医療法人 春光会
事業所名	グループホーム 雁ヶ音
所在地	宮崎市東大宮4丁目20-15 (電 話) 61-8525
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年7月23日

【情報提供票より】(20年 6月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12月 01 日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18	人
職員数	14人	常勤	12人,	非常勤	2 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り
	2階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有(72,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	☒ 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(6月13日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 65 歳	最高 102 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人春光会 雁ヶ音クリニック 医療法人春光会 宮路医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅地にあり、デイサービスや母体のクリニックに併設している。地区自治会の関係者や地域の方々の日常的な支援と連携づくりは、地域に暮らす利用者にとって安全と安心に繋がっている。中学生のボランティアを受け入れるなど、地域交流も盛んに行われている。管理者、職員は利用者一人ひとりの状態やペースに合わせた柔軟な支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	地域との連携作りに取り組み、交流も増えてきている。その実践をふまえて、理念の中に地域生活の継続と地域性などを取り入れた理念の検討をすすめてほしい。また、外部研修への参加の機会を増やし、他の職員への報告を行い、利用者支援に活かしてほしい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
②	自己評価、外部評価の意義について全職員で話し合いの機会を持ち、サービスの質の向上に向けた全職員の取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
③	運営推進会議は2か月に1回開催している。地区自治会代表者、民生委員、包括支援センター職員、家族、職員で意見や要望などを話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
④	運営推進会議などで家族から意見が出されるが、会議に参加できない家族からの意見、苦情への対応は意見箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
⑤	地域の夏祭りに住人として参加している。中学生や車椅子のレクダンス、生花などのボランティアを受け入れたり、災害時は、地域の人々の協力が得られる体制づくりがあり、日常的に地域との連携を蜜にしている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念、ホームの理念をわかりやすい言葉で独自に作り上げている。	○	地域との連携作りや交流に取り組んでいる実践をふまえて、これまでの理念にさらに、地域密着型サービスとしての理念を検討して加えてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティングで唱和し、職員全員がその理念に沿って利用者支援ができるようにしている。見やすい箇所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加している。中学生や車椅子のレクダンス、生花などのボランティアを受け入れて、地域との交流に努めている。また職員は月2回の地域パトロールに参加したり、菜園を地域住民の方がホームに貸してくれるなど、地域との連携が形成されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義とねらいについて、運営者、管理者、職員で話し合い全員で取り組む機会がなかった。	○	評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に向けた、全職員での取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回実施している。自治会代表者・包括支援センター・民生委員・家族・職員が参加し、話し合いや意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者や関係機関との連絡調整について、直接的な関わりはほとんど持っていない。	○	市町村担当者に対する連絡、連携を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりを伝えたり、健康状態について必要な時は随時、電話連絡をしている。金銭管理については、月1回書面で報告し領収書を届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を置いている。市町村担当の窓口や国民健康保険団体連合会の苦情受付機関を表示したり、介護相談を受け入れホーム以外の外部の人に苦情が表せる場をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わることで、利用者が混乱した例もあったことから、スタッフのコミュニケーションを図りながら利用者の不安を少なくする配慮をしている。	○	緊急的な異動はやむをえないが、利用者で紹介し、理解をしていただき混乱や動揺を与えない配慮や工夫をしてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など職員は公休で参加している。しかし、復命をして研修内容を報告する機会がない。	○	研修に参加する機会を増やし、また他の職員への報告(復命)を行い研修内容を全職員で共有し、利用者支援に活かしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県中央ブロックの連絡協議会との連携や研修会の参加をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が家族などとホームの見学に来ていただき、支援の様子等を説明し、本人が安心して、納得した上で他の利用者や場の雰囲気に慣れていただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として昔からの慣習や料理の知恵などを学ぶことがあり、感謝の気持ちを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、会話や家族からの情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、スタッフ会議で、職員全員が参加してカンファレンスを行い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合いを持ち、必要に応じて介護計画の見直しを3か月に1回行っている。	○	課題分析の方法について検討し、アセスメントシートの作成・活用をして、状態の変化が無い場合にも月に1回の見直しを行ってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の際、やむを得ない場合は職員での対応も行っており、また緊急時、地域の方が一時宿泊するなど対応の体制はできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、併設クリニックで診療を受けており、他の医療機関に受診している利用者は家族が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員同士で終末ケアに対する話し合いも行っている。併設クリニックの応援をもらいながらその体制づくりはできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にして、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助する一方にならず、利用者と職員全員が同じものを一緒に食べながら、さりげない介助や会話ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を確認し、体調に合わせて入浴をいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション用品は手の届くところにあり、本人の気持ちや力を活かし、生け花、編み物、菜園づくりなど本人の楽しみや役割をつくりだす支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩として近くの公園や菜園まで出かけたり、行事としての外出支援などはできている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出の傾向をつかんで対応し、玄関には鍵を掛けずに見守りや確認をおこなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。災害時、併設施設や地域の住人・自治会担当者など参加した協力体制とマニュアルができている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量をチェックし、併設クリニックの管理栄養士の指導を受けながら栄養のバランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から調理する音や香りが漂ってくるリビングに、利用者がテーブルやソファークつろぎ、テレビを見ている。同じスペースの事務室から利用者の様子が見える。壁に表示されたスタッフの顔写真は、利用者や家族の安心に繋がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を確認しながら、好みや馴染の物などが置かれ、その人らしく過ごせる居室作りをしている。		